



2022年8月1日発行
1947年10月27日
第3種郵便物認可
発行所/日本YMCA同盟
東京都新宿区本塩町 2-11
THE YMCA 神戸版
神戸YMCA
〒650-0001
神戸市中央区加納町 2-7-11
Tel 078-241-7201
Fax 078-241-7479
www.kobeymca.org
発行人/井上 真二
編集人/松森正樹
印刷/有わかばやし印刷

YMCA News



年間聖句 「あなたに平和、あなたの家に平和、あなたのものすべてに平和がありますように。」 サムエル記上 25章6節

真っ黒い画面の中から聞こえてくる声

くろさき ゆな
黒崎 優菜 (三宮リーダー会・One Camp実行委員長)



私の大学生活はその声と共に始まりました。コロナ禍の2年間は人の存在、温かみなどまるで感じませんでした。キャンプはそんな中、私に仲間と集う場と、生きる希望を与えてくれました。“思いを紡いでいくことで生まれる、人と共に生きる喜びを得られること”これが私にとってのキャンプの意義です。誰かと一緒にたわいもない会話をしながらご飯を食べる、焚き火の周りに惹き寄せられるように人々が集う、すべて偶発的に生まれる出会いであり、過去には当たり前であった幸せだと思います。しかしその幸せには、今は一人ひとりが意識的にその空間を作ろうとしなければなかなか出会えません。

キャンプに来ると、自然にふれると、黒崎優菜という存在自体を受け止めてくれるから、着飾らない自分に戻れると感じます。でも、せっかく得たその感覚も、社会に戻ると持ち続けるのが難しく、その間がとても苦しい。

自然の中に身を置き過ごしていると、心が研ぎ澄まされ、普段の生活では内に秘めていたであろう感情が自然と表に出てきます。また、感情が常に行き交い、人の存在を近くに感じることもできます。

特に私たちの世代は、安心や効率を求めがちで、既にある枠の中に留まろうとする人が多いと感じます。これを時代の流れであるという言葉で、私は片づけたくないです。どの時代にも、誰にだって「生」自体はみな等しく、個人の尊さは他の何にも変えられないと思うからです。

終わりがあ

終わりがあ

かわさき たかこ
川崎 孝子 (余島リーダーOG・公益財団法人神戸YMCA理事)



キャンパーだった私が、リーダーとして再び余島に来たのは1980年でした。朝露で濡れた落ち葉の上を、スタッフキャビンから駆け下りていく時の音と匂いを、今も体が覚えています。

夕陽会で聞いた今井鎮雄先生や近江岸建助キャンプ長の、肢体不自由児キャンプやハンセン病患者の療養所の話は、今も心に残っています。

やがて結婚し、息子が自閉症だとわ

キャンプは「失われたものを記述する

かったのは彼が4歳の頃でした。まるで自分だけ違う世界に追いやられているようでした。

10年間、余島とは一本の電話で繋がっていました。「元気か？」いつもこの一言から始まります。「できるなら普通の人生をやり直したい」と吐露したこともあります。「別にそう思ってもええねん。OK」と建助さんはいつも変わらなかった。

余島でワークに参加していると、木々が切り開かれていく音と共に木の香りが広がり、私を40年前の空間に連れ戻してくれます。ディレクターとリーダーたちの姿が、昔の自分と重なります。まるで歩んできた道の答えあわせをしているようでした。

40本の年輪を数えていると、同じ時を悪戦苦闘していた自分が小さな存在だと感じました。「おかえり。遅かったな」。人は必ず死ぬし、私も死にます。でも終わらない何かはここにはある。そう思うのです。

何か足りないもの、それは開放感

ふくしろ みのり
福代 美乃里 (東京都立武蔵高等学校・Fridays for Future Japan)



私にとってキャンプは開放的に過ごせる場所です。誰かと木に登れるし海で遊べる。木こりもできるし、その木で焚き火をして、好きなだけ歌って踊ってキャンプファイヤーができる。誰かと朝日を見ることも星空を見ることもできる。新しい人に出会って、なぜかすぐに話せるようになる。一緒に作業することもできるし、一人で考え事をすることもできる。みんな

で話し合うこともできます。

なんでキャンプに行ったら開放感を感じるのかということ、それが型にはまっていないからです。私はああしないといけな、こうしないといけな、に動かされて生きていた気がする、というかそれすらも考えずに生きていたと思います。例えば高校だったら、この時間にはこの机に座って教科書のこのページを見てノートを取るとか、大学受験は必ずするものだしそのために勉強するべきだ、とか。

私は16年しか生きていないけれど、流れに乗って何も考えずに「そういうものだ」と思って生きることは、たとえ過ごしやすくても何かを見失い、自分の意思はそこにはないから後悔したり、やりがいを感ぜなかったり、それに気がつくとも楽しくなくなるとわかりました。

ときどきキャンプに戻りたくなる時があります。普段の生活では何か足りなくて、キャンプにはあるもの、それは開放感。だから私がキャンプで感じた開放感は貴重なものだと思うのです。

私たちがキャンプで「良きもの」を体験するのは、それが社会で「失われたもの」だからです。1980年代をリーダーとして過ごした川崎孝子さんの「終わりがあ

第265代ローマ教皇ベネディクト16世は、聖書は「共同体で読み解かれることを待っている」と言います。そして「事実

失われたものの記述は、分断された人々を集め、その意味を共に考えることを強いることで、未来への責任を果たそうとするのです。

キャンプディレクター 阪田 晃一

神戸YMCA大会(総会)を開催しました

6月25日(土)、神戸YMCA三宮会館にて神戸YMCA大会を開催しました。2018年度までは総会の実施でしたが、総会構成員以外の皆さまにもご参加いただける「大会」とし、神戸YMCAにかかわる人たちが世代を超えて一堂に会し、神戸YMCAの歩みを確かめ、将来に向け語り合い、楽しく、喜びがあふれる一日とすることを願って2019年度から開催しています。

しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により2020年度は中止、2021年度はオンライン形式で実施し、今年度については会場とオンライン併用での開催となりました。

第1部の礼拝では、関西学院大学神学部の橋本

祐樹先生より「隔てのない命令」というメッセージをいただきました。

第2部の総会では、2021年度の活動と決算、2022年度の方針と計画の報告があり、改選の常議員の承認がなされました。また、新しく推挙された名誉会員の皆さまの紹介、功績のあったボランティアの方への奨励賞の授与、ユースリーダーの委嘱式も行われました。

第3部は「みんなと語ろう」と題して、コロナ禍で見えてきた新しい社会課題をふまえ、神戸YMCAが未来に向かって何をすべきか語り合うことを大切にしたいと願い、オンライン参加者と共に交わりの時を持ちました。



マスクを外して記念撮影

長らく顔を合わせる機会がありませんでしたが、対面でこそ得られる力と喜びを感じられた一日でした。この大会を通して、頂きました会員の皆さまの声や思いを携え、この一年を歩んで参りたいと思います。

※名誉会員、ボランティア奨励賞受賞者のご紹介を4面に掲載しています。

ライフスタイルにあったスポーツのすすめ

ウェルネスセンター

今年の梅雨は短く、あつという間にセミの鳴き声が聞こえる夏を迎えました。この号がお手元に届く頃には夏の甲子園の開幕を迎えているかと思えます。猛暑ですので、高校球児たちが安全に野球を楽しむことができると願うばかりです。

さて、野球やサッカーのような近代競技スポーツは、「身体技能の競争を楽しむ」という一元的価値を人々が共有する文化です。こうしたスポーツは今後さらに「上昇志向」性を強めることでしょう。しかし、スポーツの個性化と多様化は非常に速く進んでいます。「上昇志向」とは対照的な「水平あるいは下降志向」とでも言うべき志向性をもつスポーツです。例えば、コミュニティ・スポーツ、ニュー・スポーツ、自然志向のスポーツ、気のスポーツ、伝統・民族スポーツなどです。それらは「いま」「ここ」、あるいはスポーツ活動の基底にあるより深い人間的価値を追求することです。

多様なスポーツの中から、自分のライフスタイルに合わせたスポーツを見つけましょう。取り組み方は「軽運動を気楽に」でもいいですし「競技スポーツを本気で」でもかまいません。「家族や友人と自由に」「スポーツクラブで楽しく本格的に」でもいいでしょう。自分の好きなスポーツを自分らしく主体的・継続的に取り組み、ウェルネスライフをみんなで、地域で実践していきましょう。



修学旅行を終えて～京都・大阪～

神戸YMCA高等学院

コロナ禍のため3年ぶりの実施となった修学旅行。12名の生徒が参加し、1泊2日で京都(嵐山、金閣寺)・大阪(USJ)に行ってきました。

1日目の嵐山では京都特有の暑さを感じながら、お団子を食べたり、天龍寺方面を散策したりしました。集合時には両手いっぱいにお土産を持っていて、嵐山を満喫したようです。和菓子作りでは、生徒それぞれ個性あふれる和菓子が完成しました。金閣寺では舍利殿の圧倒的な存在感に感動し、記憶に残る素敵な思い出になったのではないのでしょうか。

2日目は、待ちに待ったユニバーサル・スタジオ・ジャパン。映画の世界観を表現したエリアやアトラクション、絶叫マシンを思う存分楽しみました。

修学旅行では、普段の学校生活では学ぶことのできない新しい出会いや友だちとの交流がありました。最後になりますが、今回の修学旅行にご協力とご理解を頂いた保護者の皆さま、誠にありがとうございました。

3年担任 妻木 啓晃



灯台

Light House

No.35

総主事 井上 真二



運動部活動はどう変わる?

「運動部活動の地域移行に関する検討会議提言」が6月、スポーツ庁に提出されました。全国公立中学校について、来年から3年間をかけて休日の部活動を地域のスポーツクラブなどに委託し、休日の地域移行が進めば平日についても移行していく方針が盛り込まれています。

中学校の生徒数は1986年が最多で、2021年は約296万人とほぼ半減しています。学校や教員の数も減っているのに対して、運動部の数は2004年度から2019年度時点ではほぼ変わっておらず、部員が集まらず練習すらままならないケースも見られ、学校だけで活動を維持していくのが困難な状況であることは容易に想像がつかます。

このような状況での地域移行先は総合型スポーツクラブを想定されているのかもしれませんが、指導者や場所の受け皿があるのか、財源がある

のか、また、指導料や会費等を中学生側が負担するのではないかなどの疑問が出てきます。そもそも部活動の法的な位置づけでいうと、教育基本法などの法律に規定はなく、学習指導要領に「生徒の自主的、自発的に行われる部活動」と明記されているだけです。部活動は「教育活動」、地域移行後は「スポーツ活動」と根本的なとらえ方が違うこと、地域スポーツクラブといっても地域という土壌を各スポーツ団体がすべて共有しているわけではないこと、地域によって種目にバラツキがあるという問題もあります。

部活動にはひとつの種目に集中して取り組むことでの技術向上、異年齢との交流からの学びなど、YMCAのユーススポーツの5 Goal(FUN、SKILL、FAIR PLAY、FITNESS、VALUE)と関連するところもありますが、公教育が行うからこそ、「生涯スポーツにつながる多様目型」や「健康教育の場としてのエクササイズ視点」を取り入れ、生活習慣の向上や人生の質を高めることにつながればと期待しています。現在、行政ではコミュニティスクール(学校運営協議会制度を導入した学校)の設置が協議されています。社会教育の範疇としてYMCAができることは何かを考えながら、この改革に注目していきます。

R E P O R T

学園都市YMCA保育ルーム

無限に広がるこどもの遊び

今年度、学園都市YMCA保育ルームの1歳児たんぽぽ組に6名が新たに入所し、2歳児のちゅうりっぷ組の8名とあわせて14名で保育がスタートしました。4月は新入のこどもたちの大きな泣き声が保育室いっぱいに響いていましたが、今ではみんな笑顔で登所して来ます。

7月に入り、保育ルームのテラスでは水遊びが始まりました。毎朝たらいに水を張ると、こどもたちは思い思いの遊び道具を手にとって、笑顔いっぱいで遊び始めます。水遊びをしていると自然と語彙も増えてきます。

「つめたいね!」「きもちいいね!」と五感をたくさん使って楽しんでいます。

ごっこ遊びも盛んになります。「ジュース屋さんです」「いかがですかー」など、こどもたち同士のやりとりが増え、遊びが無限に広がっていきます。

これからまだまだ暑い日が続きますが、絵の具あそびや氷遊び、ボディペインティングなど、夏の遊びを通して心も体も解放させながら、暑さに負けず元気いっぱい過ごしていきたいと思います。



神戸市立たかとり児童館

たかとり児童館パーティー

先日、小学校の運動会の代休日があり、3年生以上のこどもたちが考えた「たかとり児童館パーティー」を行いました。4月末に、近隣の塾が、こども向けに開催するイベントのチラシを学校の前で配布しており、それを見た一人が「児童館でお祭りをしたい」と言ったことが始まりです。

たかとり児童館では、終わりの会を1・2年生と3年生以上で分けています。3年生以上の終わりの会の時に「お祭りをしたい人はいない?」と呼びかけ、どのようなお店(ゲームコーナー)をしてみたいの

か、どのようなルールにするのか、景品は何にするのかなどを話し合い、1・2年生には「秘密」で準備を進めていきました。当日は、お店を回る1・2年生も、お店屋さんをする3年生以上も全員が楽しみ、大盛況でした。

自分たちがしたい何かをみつけて、お友達とつながる。そして、そのことによってよくなっていくということ、こどもたちが考えた遊びを通じて感じました。



神戸市立垂水体育館

安心安全なスポーツ空間を目指して

垂水体育館は「リノベーション・神戸」第2弾のひとつである「垂水活性化プラン」の一環で整備が進められ、この4月に新しい場所に移転し供用が開始されました。空と海の青さを際立たせる色彩を用いた外観、温かみのある木材を使用した内装で、利用できる施設が2カ所増えたほか、トレーニング室が新設されました。空調設備を完備、膝や腰に優しい床材を使用するなど、安心安全なスポーツ空間となっています。新たにバスケットボールの利用が可能となり、より多くの皆さまにご利用いただけるようになりました。

4月からスムーズに供用開始できるよう、昨年より時間をかけて準備を進めてきましたが、いざ始めてみるとさまざまなご意見をいただきます。高齢の方が玄関で靴を履き替える際のイスを設置したり、こどものケガを防ぐクッション材を追加したりしています。

利用人数も約2倍となり、多くの皆さままでにぎわう施設となりました。利用者の声を聞きながら改善できるところは改善して、これまでのように地域の皆さまに親しまれる体育館として貢献していきたいと思っています。



館内には絵本が読めるキッズスペースや授乳室も完備されています。

こくさいのまど

日常の平和、世界の平和

6月27日(月)、頌栄幼稚園の職員と保護者を対象とした平和プログラムを、神戸YMCAの職員が担当し実施しました。今回は「貿易ゲーム」というワークショップを通して世界の縮図を体験し、平和について考える機会が与えられました。

「世界の平和」と言うと戦争がない、いじめがないなどといった漠然としたイメージが浮かび、自分ごととして捉えるのは難しいかもしれません。しかし、家庭の平和、幼稚園の平和を考えると、「みんなの笑顔」や、「違いを受け入れる」「相手を認める」などの具体的な行動が出てきます。日常の平和の積み重ね

が、世界の平和に繋がっていることを信じたいと思います。

参加者の感想を、一部ご紹介いたします。「自分の意見と違う人を排除するのではなく、いろいろな意見を受け入れ、考えていく力が平和な世界をつくることにはたくさんありますが、その中でも幸せを創り出すことができるのは、乳幼児期からの愛に満ちた関わり、保育教育の中にこそあると思います」

皆さまは、平和をつくるためにどんな行動を起こしますか?



YMCA STORY

「神戸におけるキリスト教と神戸YMCAの使命」

日本基督教団同志社教会牧師
(前日本基督教団神戸教会牧師)

菅根 信彦

『神戸とYMCA百年』(1987年3月25日発行)の扉ページを開けると、最初に目に飛び込んでくるのは「弟子の足を洗うキリスト」(田中忠雄作/1980年)という絵画です。この作品は現在の三宮会館の2階チャペルに掲げられています。『田中忠雄回顧展』(神戸市立小磯記念美術館/1998年)の作品解説には「本作では、イエスの行動に対して、とまどいを隠せない弟子たちの表情が印象的です。ある者は師の姿をじっと見つめ、また別の人々は互いに何かをささやきあっています」とあります。この作品はヨハネによる福音書の「弟子の足を洗う物語」(13章1~17節)を題材として、イエスが十字架に引き渡される過越祭前日の夕食の時に、イエスが突然たらいに水を汲んで弟子たちの足を洗い、腰にまとった手ぬぐいでふき始めるという場面を描いています。イエスは弟子たちへの「新しい掟」として、互いに足を洗うべき本物の愛の姿を示したとされています。

1986年10月4日に挙行された神戸YMCA創立100周年記念式典の礼拝で、当時の日本基督教

団神戸教会の岩井健作牧師は、この田中忠雄の「弟子の足を洗うキリスト」に触れ、イエスに足を洗われる弟子のペトロが戸惑う中で、「わたしのしていることは、今あなたには分かるまいが、後で、分かるようになる」とのイエスの言葉に注目し、人に仕える愛や奉仕は後になって新しい意味をもつものであるというキリストの愛の本質について語りました。そして、神戸YMCAが「後でわかるような愛と奉仕に徹しきれるか」との問いを投げかけられました。

1886年5月8日に諏訪山紅葉館にて発足した神戸YMCAは、今年で創立136周年を迎えます。あの100周年の問いかけから36年が経過し、新三宮会館が竣工して5年が経ちました。コロナ禍の中で、また、対立と分断化の世界の中で、さらに、ウクライナでの戦闘激化という厳しい社会状況の中で、忍耐をもって愛と奉仕と平和を追い求めることができるか、今こそ私たちの使命が鮮明にされる時はありません。

2022年度神戸YMCA大会(総会)を終えて～会員表彰～

■名誉会員

名誉会員とは、通算20年以上神戸キリスト教青年会(神戸YMCA)の維持会員で、YMCAの発展に特に貢献があった方の中から、常議員会の推挙を受けられた方です。

今西 時子さん、吉田 明さん、下村 俊子さん、加茂 周治さん、島田 恒さん、鈴木 肇さん、松本 文男さん、松本 美耶子さん(順不同)

■ボランティア奨励賞

ボランティア奨励賞は、特に顕著な貢献により各部門の責任者等から推薦され、常議員会の推挙を受けられた方に贈られます。

齊藤 毅流さん(神戸市立須磨体育館)

神戸YMCAは、共同指定管理者として神戸市立須磨体育館の管理・運営を行っており、ミニバスケットボールプログラムではYMCAのリーダーが指導にあたっています。齊藤さんは、小学1年生から6年生までこのプログラムに参加され、卒業後すぐに「自分のバスケが始まった須磨体育館でリーダーとしてかわりたい」と申し出ていただきました。中学、高校の6年間にわたってプログラムにかかわってくださったほか、地域のチームと交流試合をする際には裏方として子どもたちを支え、審判等の運営面でも助けていただきました。今年4月に大学進学のため神戸を離れましたが、神戸に帰ってきた時には何か協力したいと、つながりを持ち続けてくださっています。

神戸YMCAの使命(日本YMCA基本原則)

- イエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学びます。
- すべての人びとの全人的な成長を願い、いのちを守り育てます。
- 人権を守り、喜びと痛みを分かちあう社会をめざします。
- 世界の人びとと共に、平和の実現に努めます。

神戸YMCAの願い(神戸YMCA中期計画2020)

すべての「いのち」が光り輝くように、これを守り育てます。そのための活動に世代を超えた市民の参加を求め、その活動を通して新しいコミュニティを創造します。

ファミリーウエルネスセンター
ランゲージセンター
専門学校
西宮YMCA
余島野外活動センター
デイキャンプ&コミュニティサービス(兼キャンプ事務局)
国際・奉仕センター
ウエルネスセンター学園都市
西神戸YMCA
神戸YMCA高等学院
YMCAおひさま

☎078(241)7202
☎078(241)7204
☎078(241)7203
☎0798(35)5987
☎0879(62)2241
☎078(241)7216
☎078(241)7204
☎078(793)7401
☎078(793)7402
☎078(793)7435
☎078(793)9077

西神南YMCA
須磨YMCA
YMCA保育園
西宮YMCA保育園
西神戸YMCA保育園
神戸学園都市YMCAこども園
神戸YMCAちとせ幼稚園
YMCAちとせ保育ルーム
西神戸YMCA幼稚園
西宮つとがわYMCA保育園
あかしこども広場
学園都市YMCA保育ルーム

☎078(993)1560
☎078(734)0183
☎078(794)3901
☎0798(35)5992
☎078(792)1011
☎078(791)2955
☎078(732)3542
☎078(786)3821
☎078(997)7705
☎0798(26)1016
☎078(918)6355
☎078(794)3045

ワイズコーナー

ワイズメンズクラブ西日本区大会

六甲部部长 若林 成幸さん
(宝塚ワイズメンズクラブ)

去る6月11日(土)、岡山市でワイズメンズクラブ西日本区の年次大会が開催され、西日本区に属する78クラブの約500名が参加しました。コロナ禍で失われた交流を取り戻すかのように再会を喜び合い、2022~23年度の新しい歩みを始めました。

西日本区理事の田上 正ワイズから示された活動方針は「原点を将来に生かす!~立ち上げられワイズモットーと共に~」。若き頃、YMCAを支えYMCAと共に社会奉仕をする姿に大きな感銘を受け、もう一つの人生を歩んできたワイズメンが、再び、クラブ入会時の感激を共に語り合い、共に味わって新たな一歩を踏み出そうと決意を新たにしています。



感謝・寄附

(敬称略、順不同)(前号掲載以降~6/20現在)

寄附

原 寛、上杉 徹、高田 裕之、澤井 恵子、株式会社上組、西宮ワイズメンズクラブ

ウクライナ支援募金

石丸 英嗣、細見 俊雄、小泉 啓子、山本 常雄、吉野 智美、岩野 祐介、ヒラカワムネヨシ、松田 道子、岩井 義矢、藤田 良祐、小澤 昌甲、松森 正樹、大石 恵理子、松田 康之、真野 秀太、谷上 悦子、前田 貴史、中島 靖人、石丸 星香、水野 宏明、進藤 幸恵、坂本 淳子、齊藤 靖、RONNI ALEXANDER、宗行 孝之介、谷川 朋、谷川 迪子、東 恭子、入谷 由喜子、熊谷 郁子、田中 英志、石原 美穂、海藻 佳代子、田川 幸夫、奥 正之、加藤 和彦、中西 敦子、日本基督教団北須磨教会、日本基督教団但馬日高伝道所、竹野伝道所、日本基督教団甲南教会、日本基督教団東灘教会、松陰中学校・高等学校、社会福祉法人神戸婦人同協会 青谷愛児園、平和を願うコンサート実行委員会委員長 ティンクル音楽工房代表 百済余志子、神戸ワイズメンズクラブ、さんだワイズメンズクラブ

この他にも、多数の募金・寄附をいただいております。感謝をもってご報告します。

